



環境アセスメント学会

-Japan Society for Impact Assessment-

2021年8月吉日

環境アセスメント学会 会員各位

環境アセスメント学会・企画委員会

小冊子作成ワーキンググループ

小冊子『**先手先手の環境配慮が肝心「配慮書を活用しよう」**』
発行について（送付ご案内）

環境アセスメントでは、環境に影響を及ぼすおそれのある行為について、その実施が環境に及ぼす影響を調査・予測・評価し、その結果に基づき、環境を保全するための適切な措置が求められます。また、環境アセスメントのプロセスを通じて、地域や社会の持続可能性にポジティブな効果を果たすことが期待されます。

なかでも、改正環境影響評価法（2013年4月施行）において創設された、計画段階配慮書（以下、「配慮書」）は、計画の早い段階で先手を打って重大な環境影響を避けるための重要な仕組みです。これまでにかなりの件数が実施されていますが、十分に理解・活用されていない部分があります。そこで本学会では、『先手先手の環境配慮が肝心「配慮書を活用しよう」』という小冊子を作成しました。この小冊子は、具体的な配慮書の事例を読み解き、その教訓から学び取れる配慮書が社会に果たす役割とそれが機能するための考え方を示しています。今後、配慮書が適切な役割を果たすことを通じて、様々な事業や計画が先手を打って環境保全を組み込み、持続可能な社会づくりに貢献できることを期待します。

会員各位には一部ずつ送付しますので、ご活用ください。

以 上

- ※ 余分に必要とする方は、ホームページ（<http://www.jsia.net/>）からダウンロードしてご活用下さい。
- ※ この小冊子の記述内容についてお気づきの点は、学会事務局にメールまたはFAXでご連絡戴ければ幸いです。

（この小冊子の作成では、伊東英幸、上杉哲郎、尾上健治、傘木宏夫、柴田裕希、錦澤滋雄、松島正興、宮下一明、持木克之（五十音順）のメンバーが中心となって作業しました。）